

自由が罪と教えられた時代。

あなたなら、どう生きましたか？

# 逝

言葉が消えた日



# 救

へんこう

2019年度台湾映画No.1大ヒット

1962年にある高校で起こった、政府から禁じられた本を読む読書会迫害事件を描く、「悲情城市」、「牯嶺街少年殺人事件」に続く白色テロ時代を背景にした衝撃作！

2019年度  
金馬獎 5部門受賞

2020年度  
台北映画賞  
グランプリ他 最多6部門受賞

2020年度  
アジア・フィルム・アワード  
視覚効果賞 受賞

2019年度台湾映画 No.1大ヒット!

第56回金馬獎12部門ノミネート、最優秀新人監督賞を含む最多5部門受賞

クーリンチエ

# 『悲情城市』『牯嶺街少年殺人事件』に続く、 白色テロ時代を描いた 衝撃のダーク・ミステリー!

1962年、独裁政権のもと国民のあらゆる自由が制限されていた台湾ある高校で政府が禁止する本を密かに読む読書会が開かれていたが、遂に国家の手による迫害事件が起きてしまうその陰には、哀しい密告者の存在が――

放課後の教室で、いつの間にか眠り込んでいた女子高生のファン・レイシンが目覚めると、なぜか人の姿が消えて学校はまるで別世界のような奇妙な空気に満ちていた。校内を一人さ迷うファンは、秘密の読書会のメンバーで彼女に想いを寄せる男子学生のウェイ・ジョンティンと出会い、力を合わせて学校から脱出しようとするが、どうしても外へ出ることができない。廊下の先に、扉の向こうに悪夢のような光景が次々と待ち受けるなか、消えた同級生と先生を探す二人は、政府による暴力的な迫害事件と、その原因を作った密告者の哀しくも恐ろしい真相に近づいていく――。

台湾人が忘れてはならない負の歴史をストーリーに取り入れるという大胆な発想で大ヒットとなったホラー・ゲームを元に、迫害事件の謎解きと、青春を奪われた若者たちの切ないドラマが交錯する。その深いメッセージ性が昨年1月の台湾総統選挙にも影響を与えたと言われ、メディアやSNSで大騒動を巻き起こしたダーク・ミステリーがいよいよ日本に上陸する!



言葉が消えた日  
**返校**

台湾の白色テロ時代とは? 1947年の二・二八事件以降の戒厳令下において、蒋介石率いる国民党が反体制派に対して政治的弾圧を行った。それから40年もの間、国民に相互監視と密告が強制され、多くの人々が投獄、処刑された暗黒の時代。

■監督: ジョン・スー ■出演: ワン・ジン、ツォン・シンファ、フー・モンポー、チヨイ・シーワン、チュウ・ホンジャン  
■原題: 返校 / 2019年 / 台湾 / カラー / 103分 / シネスコ / 5.1ch / 字幕翻訳: 岡田美希 ■配給: ツイン TWIN 宣伝プロデュース: プレイントラスト

henko-movie.com

R15+  
監 査

## 7/30(金) 全国ロードショー

👉 **レビチケ** カード 絶賛発売中 ¥1,500 (税込)